

研究会レポート

リージョナルステート研究会 (社)日本技術士会北海道支部/ 北海道技術士センター

平成17年度の活動に向けて

本年度の前半は、全国大会のための準備に費やしましたが、結局ここまで4年間の活動のまとめという意義がありました。当研究会目的の明確な再認識と今後何をすればいいか、おのずと方向が出てくる機会になりました。これ等を受けて後半は、自然科学教育分科会、観光分科会、循環技術システム研究分科会の各分科会活動について、「実行」と位置づけました。具体的には、各分科会の提案を外部の機関に向けて提言をする、相手とのやりとりの中から更に、ニーズに合った内容に充実させるプロセスが必要です。その過程の中から次への新しい展望が開けてくると思います。

道内の各市町村は、三位一体の改革、市町村合併、道州制特区の申請などの激しい動きの中で、財政の苦しさが益々ひっ迫しています。これからは、行政自ら身を削らざるを得ませんし、住民に対するサービスの範囲も考えざるを得ません。そういう状況の下、各地域はしたたかに生きようとしています。地域の特色を生かし、地域の人々の連携によって「地域づくりは地域の人々で」をモットーに確実に動きつつあります。

私たちの提案をより現実的にするためには、地域の人々を知ること、ニーズを把握すること、答えられる技術力を養うこと、タイミングを外さないこと、等でしょう。

平成17年3月2日(水)は当研究会の総会を開催します。楽しく元気の出る講演も用意し、更に平成17年度に対し目標を具体的にしたいと考えています。

(文責：研究会会長 市村 一志)

自然科学教育分科会

最近の活動内容を以下に報告します。

1. 定例分科会

12月3日の分科会では教育サポート、NPO団体との懇談会等についての報告がありました。

2. 教育サポート

定山溪中学校、北海道教育大学土曜講座、寿都町教育委員会。 (以上は第104号にて報告済み)

○丘珠小学校 (10月5日と8日)

テーマは「地層から推理する丘珠の昔」、教室と野外での理科授業。担当は対馬一男、サポートは五十嵐敏彦、今井淳一、工藤好騎。

○聖心女子学院 (10月9日と16日)

テーマは「どんぐり拾いとポット苗作り」、野外授業。担当は北越正生。

○江別市教育研究会 (10月29日)

テーマは「校庭の樹木について」、小学校教諭の研修。担当は三木昇氏(自然愛好家)、サポートは五十嵐敏彦、油津雄夫。

○琴似小学校 (11月4日)

テーマは「守ろう僕らの地球環境」、総合学習に対するアドバイザー。担当は油津雄夫、サポートは板谷利久。

○野幌小学校 (11月8日)

テーマは「野幌の地層」、教室と野外での理科授業。担当は赤松周平、サポートは五十嵐敏彦。

3. 合宿

9月18～19日に札幌市内某所にて分科会活動等に関する情報交換会を行いました。参加人数は6名。

今年はメンバーから多くのサポートメニューが出されましたので、今後も多彩な活動をしていきたいと思っています。

(文責：対馬 一男)

観光分科会

1. 観光分科会からの提案

観光分科会は現在 22 名が参加し、勉強会を重ねていますが、これまでの勉強の成果として、先の日本技術士会全国大会で以下の 4 つの提案をしました。

- ① 沿道の住民や担い手の暮らしが見える観光ネットワークと拠点づくり
- ② 物語やテーマのあるドライブルート
- ③ 情報と活動の拠点づくり
- ④ 「道の駅」でのビジネス創出

上記③と④は観光振興の拠点づくり、①と②はこれらのネットワーク化による周遊性の高い魅力的な北海道観光をめざしたいものです。

もちろん北海道観光の魅力づくりのためには、上記で示したものだけではありません。最近は個人旅行の増大に伴い、個々人の多様なニーズを反映した様々な観光が提案されています。花観光、農村観光、遺産観光等々です。

2. 技術士の役割について

昔から観光振興には総合的政策が必要であると言われてきましたが、観光振興には、地域住民や行政、さらには地域を訪れる旅行者など、多種多様な関係者の協働が必要です。また、必要な社会資本整備や地域社会システムの構築のためには、様々な分野の知識や技術も必要となります。

こうした観点からすると、私たち技術士は専門的な技術を背景に、人と人や組織を繋ぎ、技術と技術を繋ぐ役割を期待されているのではないかと思います。そのためには、それぞれが持つ専門的技術の他に、他分野の技術や知識の吸収に不断の努力や、積極的に「地域に出て」地域の方々との協働を通して社会貢献していくことが必要ではないでしょうか。

3. 分科会への会員募集

今後、観光分科会の活動に参加希望のかたは、会合の案内を差し上げますので、以下にメールでお知らせください。

メールアドレス：miyatake@readjust.co.jp

(文責：分科会座長 宮武 清志)

循環技術システム研究分科会

【豊浦町見学会のご報告】

かねてより地方都市を訪ね、見学会を兼ねた意見交換会を実施したいと考えておりましたが、12月11日(土)、12日(日)の2日間で会員10名により虻田郡豊浦町を訪問してきたご報告を致します。

① いちご生産団地施設見学

豊浦町は現在いちご出荷量で2位以下を大きく引き離して全道トップですが、その立役者が平成15年11月に完成した農業生産法人(有)果夢里によるいちご生産団地です。栽培棟1008㎡×22棟、育苗棟486㎡×10棟と大規模な施設で、高橋はるみ知事をはじめ、道内外からの視察者が多数訪れています。施設内温度によって成長・出荷を調整し、他産地との競争に負けないために、温風加温装置他、雪利用冷房に取り組み、よく頑張っているのが伝わってきました。

② 提言発表会

豊浦町助役他自治体関係者、いちご農家関係者、ホタテ事業関係者等12名が参加する中で、循環研で作成した提言「循環型北海道を目指して」の発表をパワーポイントにて行いました。1時間弱の提言発表の後、質疑応答及び意見交換を行いました。非常に活発な意見が出されました。地元の問題意識が高く、現場での必要性を強く訴えるものでした。

③ 交歓会

助役と町職員を交え、町施設天然豊浦温泉「しおさい」にて交歓会を行いました。提言発表会に続き、技術士としてできる提言を続けていくことが確認されました。

この他に循環市民の会との連携等を行っています。それらについては別の機会にご報告したいと思います。

メールアドレス：t_soto@ikedan.co.jp

(文責：分科会事務局 外 朝彦)